

えでかけ

Edu-k Journal

vol. 49

March 2026



発行：NPO法人日本教育キネシオロジー協会 事務局：神奈川県横浜市神奈川区台町2-5-701 電話：045-534-7148



ブレインジムと教育キネシオロジーの創始者、ポール・デニソン博士が2026年2月1日に逝去されました。

ポールさんが来日した際に、どのように子どもの成長を助けるかについて、小学校の校長先生と対談をしていただいたことがありました。その時の対談内容でブレインジムの考え方を一般の方にお伝えするための配布物を作りました。創始者の言葉が、日本でのブレインジムの活動を初期の頃から現在まで、ずっと支えてくれています。日本での活動を常に支えてくれていた故グレンス・レッドビーターさんが同席して下さり、興味深そうに後ろから聞いている写真が残っています。

また、講座が終わった後には、甘味を楽しむ時間！日本のケーキも、居酒屋の焼き鳥レバーも気に入ってくださったようでした。

ブレインジムに出会い、このワークに深く関わることになり、私の人生は大きく変わったとつくづく思います。

ポールさん、日本まで来て、私たちを教えてください、導いてくださって、ありがとうございました。あなたの魂が、ブレインジムへの思いが、今でも世界中のブレインジム仲間を見守っていて、支えてくださっているのを感じています。

たむらゆうこ（インターナショナルファカルティ）

ポールさんとの思い出はいくつかあります。私がブレインジムインストラクターの資格を取った2010年に、京都で国際会議があり、そこで発売された著書「ブレインジムと私」にサインをいただけたこと。クリエイティブビジョンのクラスでの素晴らしいレクチャー。ドイツでの国際会議でも、しっかりハグをしていただいたことなど。

特に2013年にカリフォルニアのご自宅に伺って、奥様のゲイルさんからダブルドゥードゥルのワークショップを受けたのですが、そのご自宅でのご夫妻の様子が印象的でした。阿吽の呼吸というのでしょうか、気遣いあって過ごしておられて、日本びいきだと、いくつもの日本のグッズを見せてくださいました。

ポールさんの深い瞳の奥には、人と人の可能性に対する愛情があふれていると感じます。私もそのような気持ちで、クラスやセッションを行っています。ポールさんが、素晴らしいワークを世にもたらしてくださったおかげで、自分自身はもとより、楽に生きられる方がたくさん増えました。

心より感謝をお伝えしたいと思います。

安藤晶子（インターナショナルファカルティ）

米国教育キネシオロジー財団による声かけで、4月に「A Celebration of Life for Paul Dennison」が開かれます。全世界に向けて2回の開催が計画されていますが、日本在住の皆さんには4月17日（金）10時からの回が参加しやすい時間帯となります。参加を検討される方は、事前に登録が必要となります。下記からお申し込みください。
<https://www.eventbrite.com/e/1984922757400?aff=oddttdtcreator>





『アメリカと日本の就労支援の違い』

佐分利 美佳 (京都/NY)

春の訪れと共に、新しいスタートの始まりの季節となりました。

掲載最終回は、就労支援について書かせて頂きます。

主な違いを表にまとめてみました。

(結論)

- ・制度の柔軟性・権利保証重視→アメリカ優位
- ・生活の安定性・医療アクセス重視→日本優位

お友達の息子さんは、小さい頃から脳性麻痺で、片手と目が不自由でびっこをひいて歩いていらっしゃいますが、こちらでは、いろいろなりハビリなどの支援があり、生き生きと楽しくお仕事されています。日本で仕事を探した際は、全ての規定に合わず、合理的配慮も受け入れてもらえず、大変な思いをされた様です。

第一回目から、支援教育においても個人のニーズ

に合わせた教育や環境支援が当たり前のアメリカなので、就労においても差がありますね。本人始め家族や社会が特性を理解し、個々の能力を発揮できる社会づくりが大切だと感じました。そのために諦めず、必要性を訴え理解や共感を得ることが、必要だと思います。

私の記事と経験が皆様のお役に立ちますように願っております。

	日本	NY (アメリカ)
制度の基本思想	特別枠で採用	差別禁止、一般雇用で平等
採用の仕組み	障害者雇用枠 業務内容は限定的・配慮前提配置	スキルベース採用が主流 合理的配慮が法的義務
就労環境	企業は一定割合の障害者雇用義務有 定型業務や補助的業務に偏る傾向	個人のニーズに応じた柔軟な働き方 (リモート、業務調整)
支援サービス	就労移行支援、就労継続支援 (A型・B型) 支援は手厚い 一般就労の移行は課題	能力に応じた一般就労 テクノロジー活用 在宅勤務・合理的配慮
雇用の安定性	安定性は高いが、昇進・キャリア アップは限定的なケースが多い	成果主義のため、能力発揮 できれば高収入・昇進も可能 適応できないと解雇リスク
自閉スペクトラム	配慮前提業務、 対人負担を避ける配置	強み(集中力・正確性・専門性)が 評価され、技術職・分析職で高い適合
ADHD	ミスや時間管理の課題が評価に影響、 柔軟な働き方はまだ限定的	多動性・発想力・行動力を評価する 職種が多い、転職・副業可



海を渡ってキネシオロジー漫遊記

ポール・デニソン先生 追悼

第5回 『追悼 私の偉大なポール・デニソン先生』

中村筋肉学研究所代表 中村真人 IKCPK

悲しいお知らせが届きました。

私のブレインジムの師匠であり創設者のポール・デニソン博士が二月に急逝されました。アメリカ留学時代からデニソン夫妻には大変お世話になり、デニソン博士が物故者となってしまったことが未だに信じられません。博士とはたくさん思い出があり、何を書け

ばよいのだろうか？と迷いましたが、博士が生前私に話をしてくれたことで印象に残った事をここに書かせていただくことが、未来のブレインジムの為によろしいのかな？と思いましたのでその事を書きます。

ブレインジムの個人セッションでの心構え

博士はブレインジムのトレーニングセンターをロスの郊外に構えており、日本の下町工場くらい大きいトレーニングセンターでした。体調を崩されるまで個人セッションも定期的に行っておられてとても忙しそうでした。

博士のトレーニングセンターに行った時の事ですが、以前から気になっていた『個人セッションの進め方』を質問させていただいた事がありました。当時の私はまだブレインジムの習い始めた段階で、失敗をすることが多くとても悩んでおりました。そこで博士はどのようにセッションを進めているのかな？と思い、「ブレインジムには沢山の個人セッション方法がありますが博士はどのように各クライアントに対して提供しているのですか？」と質問をしました。博士は、「筋肉テストでクライアントの体に聞くようにしているよ」と答えられました。ブレイ

3 ページに続く



『ブレインジムが与えてくれたもの』

Q) 辻さんのブレインジムとの出会いは？

当時不登校だった子どもたちと悩んでいる私にとって、「役に立つかもしれないよ」と精神科医である主治医から勧められたことがきっかけでした。

初めて個人セッションを受けて、状況は変わらないのに気持ちが楽になっていることに驚きました。その体験がきっかけとなり、101、BBA、104 と学びを深め、MFの資格を取得するに至りました。

101 受講での目標設定とエクササイズ、振り返りを繰り返す中で、自分と向き合う時間が増えました。40 数年間生きてきて、自己肯定感が低く「自分は何も出来ない」と思っていた私が、「今の自分でいい、背伸びしなくてもいい」と思えたのは初めてのことでした。

Q) 現在はどんな活動をされているのでしょうか？

精神科デイケアの利用者さんと、週1回ブレインジムを行っています。継続する中で、利用者さん自身が変化に気付くこと、いつでもそこにあり続けることの大切さを感じながらエクササイズをしています。また、もっと土台をしっかりさせることの必要性を感じ、試行錯誤しながらの毎日です。

地域のイベントや研修会では、初めてブレインジムに出会う方がほとんどの中でのエクササイズになります。一見、皆さん難なくこなしているように見えますが、目標がある方、困難を抱えている方、健康に気遣っている方、

辻 裕美さん(ムーブメントファシリテーター・茨城県)

お年寄りなど…反応の良さを感じる場面が多くあります。その背景には、それぞれの想いや必要性があると感じています。

Q) 将来の展望は？

近年の不登校やひきこもりの方の増加には心を痛めています。私に出来ることは何かを模索する中で、フォイヤーシュタイン、傾聴やオープンダイアログ、原始反射、陰陽五行などにも触れ、今後に繋げていきたいと考えています。

さらに、地域の居場所やフリースクール、子育てイベント、障がい者施設等との繋がりを大切にしながら、情報を共有し、全ての方が特別視されず、心地よく過ごせる居場所作りを目指して活動を続けていきたいと思っています。

Q) ブレインジムへの思いについてひとこと

私はブレインジムと出会って本当にラッキーだと感じています。それは、ネガティブな出来事が起きて最初はへこんでも、いやいやこれは私にとってベストなことが起きているはず…と前を向き、力に変えて進むことができるからです。この変換、最強だなんて思います(笑)。

ネガティブな感情を抱えたまま、忘れたふりをして頑張るしかなかった私に、もう頑張らなくてもいい、自分のままでいいと気づかせてくれたブレインジムに感謝です。



ポール・デニソン先生 追悼

2 ページからの続き

ンジム 101 や OBO のセッションが必要か？またはインデプスが必要か？と口頭で質問して筋肉テストで決めている。本当に昔のブレインジムのやり方でした。

現在の世界のブレインジムでは筋肉テストはあまり使用しないでノーティシングでセッションを進めていくみたいですが、博士は好んで昔のやり方で個人セッション、特に筋肉テストを使っておりました。

私も博士と同じように今でも個人セッションでわからないことが出てきたらクライアントに聞くようにする方法を取り入れております。

「クライアントが全ての答えを持っているから、わからないことが出てきたら素直にクライアントに聞いてごらん」とじっくり話されていた博士の笑顔が忘れられま

せん。決してクライアントに押しつけをしないで相手を尊重、丁寧で優しいやり方のセッションでした。

まだ他にもたくさんの思い出話がありますが紙面の関係でこまめにします。

カシューナッツと寿司が好きだった博士、鎌倉に同行して蕎麦屋でトロロ蕎麦をチーズと間違えて食べた博士、竹寺と築地本願寺でフックアップをしながら「心を整えるのだよ」と教えてくれた博士、私の自宅に宿泊時に毎朝ゲイル先生に電話をしていた博士、新しいテクニックを教えてあげると夫妻の寝室に置いてあるマッサージベッドでテクニックを教えてくれた博士、わからないことが出てきたらメールで質問をして直ぐに返事をくれた博士。

もうデニソン博士と話をすること



ができないのがとても寂しいです。

一つだけ親孝行ができたかなと思うのが、去年の5月に博士に会いに行き、背骨をさすってあげたことかなと。

私もいずれそちらにいったらまたブレインジムの話をしたいよ。向こうの世界でもブレインジムをしているの？ゲイル先生の事は皆が支えるからね。私もブレインジムの勉強できて楽しかったよ。

ありがとうブレインジムのパパ。愛していますよ。



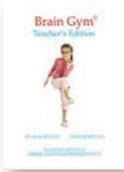
えでゆけ インフォメーション



■2026年総会のお知らせ

NPO 法人日本教育キネシオロジー協会総会は6月3日（水）に開催を予定しています。
オンライン開催 13時開始です。

■Brain Gym® Teacher's Editionの日本語版(日本語サブタイトル:ブレインジム®ガイドブック)



Brain Gym® Teacher's Edition の日本語版を販売しています。

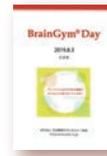
以下の2つのサイトから、ご購入お申し込みいただけます。

- ブレインジム® オフィシャルサイト <https://braingym.jp/products-2>
- NPO 法人日本教育キネシオロジー協会 https://edu-k.jp/?page_id=26556
4,400円(税込 / 1冊) 送料 2冊までレターパックライト 370円

■日本限定ブレインジムカード、ブレインジムデイ記録集を販売しています。



【1セット】 ¥3,500+税= ¥3,850
 【送料】 1セット 180円(スマートレター)
 2~8セット 370円(レターパックライト)
 9セット以上はヤマト便着払いとなります。



2017年
 2018年
 2019年版
 各一冊 1,100円
 送料 84円

【お問い合わせ】 事務局 jimukyoku@edu-k.jp

事務局の稼働日は週1回水曜日です。

●<えでゆとく>は、知っているとちょっとお得な豆知識コーナーです



身体は環境と共鳴する

天田 武志 (神奈川)

近年、身体と学習の関係を考えるうえで興味深い研究が報告されています。京都大学大学院生命科学研究科の研究グループは、耳の感覚細胞だけでなく、脂肪細胞や筋細胞といった体細胞も、可聴域の音や振動に反応し、遺伝子の働きを変化させる可能性を示しました。培養した細胞に音刺激を与えると、細胞の接着や代謝に関わる働きが変化し、細胞の状態そのものにも影響が見られたと報告されています。

音は「聞くもの」であるだけでなく、身体に届く振動として作用しているのかもしれない。

やや拡大解釈かもしれませんが、音の揺れは皮膚や骨、筋肉を通して全身に伝わり、身体の緊張や呼吸、姿勢のあり方にも影響を与えている可能性があります。そう考えると、私たちの身体は細胞レベルで環境の振動を受け取りながら、世界と関わっているとも言えるでしょう。

そしてこの視点は、ブレインジムが大切にしてきた「身体を通した学び」という考え方も深く響き合うように思います。私たちは頭だけで理解する存在ではなく、身体の動きを通して世界を捉えています。その動きには、「可聴音波による振動」という要素も

含まれているのかもしれませんが。

音を「情報」としてだけではなく、「身体が受け取るリズム」として捉え直してみると、学びの風景も少し違って見えてきます。全身で感じた振動は、知らず知らずのうちに身体の緊張や呼吸のリズムにも影響を与えているのかもしれない。そして身体が安心し、動きやすいリズムに整うとき、注意や理解も自然に生まれてくるのでしょうか。

私たちの身体は、思っている以上に環境の振動の中で働いているようです。だからこそ、ときには自分自身の身体のリズムに静かに注意を向けることも大切なかもしれません。身体感覚にそっと注意を向けること。呼吸を感じる。ゆっくり動くこと。そうした小さな実践が、脳と身体をつなぐを整え、学びを支える土台を育てていくのではないのでしょうか。

私たちは今日も、知らないうちに多くの振動の中で生きています。そのリズムに気づくとき、学びはすでに身体の中で静かに始まっているのかもしれない。



【参考資料】「音」に対する細胞応答の解明—生命と可聴域音波の関係性を問い直す成果—
<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research-news/2025-04-17>

NPO法人日本教育キネシオロジー協会
 ブレインジムに関するお問合せはこちらまで

<http://www.edu-k.jp>
jimukyoku@edu-k.jp